

お念仏ってなあに？

●目次●

はじめに——生活に根づくお念仏

1 お念仏はなんのために？……………3

①「亡き方」への祈り……………3

②「私」のための祈り……………7

2 お念仏って、なあに？……………9

①お念仏とは……………9

②「南無阿弥陀仏」——阿弥陀さま、お救いください！……………10

③お念仏をとなえると……………12

コラム「いつ、どこでとなえても大丈夫」……………15

3 いつでも、どこでも、だれにでも……………16

①心がまえ……………16

②お念仏をとなえる人の生活態度……………19

③続けること……………21

おわりに

はじめに——生活に根づくお念仏

「なむあみだぶ、なむあみだぶ……」

浄土宗は、お念仏を教えの中心とする宗派です。お寺にお参りした際や毎日お仏壇の前でとなえている、という方もいらっしゃるでしょう。菩提寺が浄土宗ではない方でも、このお念仏を聞いたこと、となえたことがある方は多いはずです。お念仏は、浄土系の宗派に限定されることなく、広く他宗の寺院でもとなえられているからです。仏教の数ある教えのなかでも、きわだつてポピュラーなものといえることができます。

お念仏は、日本の文化のそこそこにも根づいています。たとえば盆踊り。実はこれは、その昔、お念仏に独特の節回しをつけてとなえ踊った「念仏踊り」を起源としています。それが、土地ごとに特色あるリズムやメロディー、歌詞がつけられるよ

うになり、天災や戦乱、疫病、飢饉ききんなどで亡くなった人々を供養ようし、日々の生活に感謝ごしやうし後生を祈いのって行われるようになったものです。暑い季節に、人々の娯楽の一つとして行われている行事ですが、それぞれの地域の歴史と文化を背負った祈りのかたち、なのです。

日本に仏教が伝わって約1500年。法然上人ほうねんしやうにんが浄土宗を開かれてから約850年。だれもが、いつでも、どこでも行える、阿弥陀あみださまのご本願にかなった修行——お念仏は、わたしたちの日々の生活のなかに定着し、今も深く信仰されており、私たちの先祖は、先立たれた家族、大切な方々の菩提ぼだいを弔とむらい、ご供養し、また自らの極楽往生を願い、「なむあみだぶつ」ととなえてきました。

ではこの「なむあみだぶつ」、いったいどのような意味があるのでしょうか。なぜ私たちはお念仏をとなえるのでしょうか。

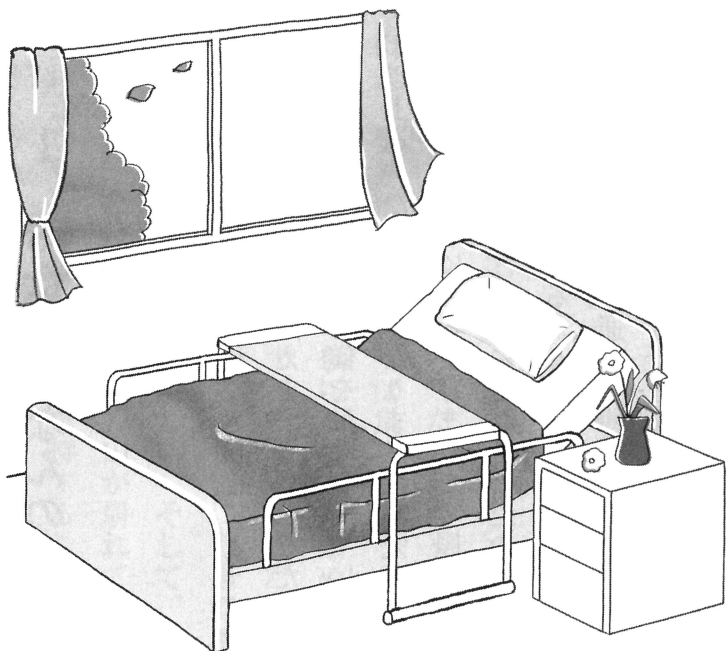
1 お念仏はなんのために？

①「亡き方」への祈り

お葬儀やご法事は、私たち僧侶にとって檀信徒の方の「ほんとうの思い」に触れる場ということがいえます。私がまだ三十代の頃、こんなことがありました。

五十代の女性のお葬儀を勤めさせていただきました。その女性は闘病生活を十年以上送った後に亡くなりました。愛妻家のご主人は自宅介護を選び、仕事を辞め、看病を一手に引き受けました。周りから見れば、本当に頭が下がるほど奥さまの世話をし、日々を送られていたのです。そして、ついに別れの時が訪れ、かなり動転されているようでした。

一般に葬祭場での通夜・葬儀の場合、僧侶と遺族の控室は別々にあり、ご挨拶や、故人の生前のお話、あるいは臨終前後の様子、信仰のこと等々は僧侶の控室でうかがいます。お葬儀の時間が近づくと、遺族は式場へ移動し、僧侶は法要の



用意をします。

ところが、そろそろ準備の時間という頃になっても、そのご主人はとつとつと奥さまの思い出話をされるばかりです。「何かお話をしたいことが別にあるのだろうか」と思いながら拝聴していました。ついに五分前となり、係員から「そろそろ…」と声がかり、私は法衣ほうえを改め、袈裟けさを着け始めました。

「和尚さん、私は明日から何をすればいいのでしょうか」

長い間、奥さまの介護に身を捧